

〔史料紹介〕

『邦訳 日葡辞書』⑤

——わが国中世の児童文化史研究によせて——

M・M・M

F字で始まる語

(承前)

ヘナモ (へなも)

子供に起こる、はしかのような或る病気。九州方言では、

これをヘボ (へぼ) と言う。

ヘンゲン (片言)

すなわち、片ことば。不完全な言葉、または、どんな言葉
であれ、人の心を打つ力のある短い言葉。

1) 日仏辞書はこれを(人の感情をそこねる)と訳している。

ヘソノヲまたはホソノヲ (臍の緒)

赤子の臍に残っているはらわた。

(例) ヘソノヲヲ キル、ツグ¹⁾ (臍の緒を切る、継ぐ) 上

述のようなはらわたを切断する。

1) 「切る」の忌詞。

ヒボヲトシまたはラビナヲシ (紐落しまたは帯直し)

九歳までの子どもがするような、帯を後ろで結ぶやり方を
やめて、前の方で結ぶこと。

ヒボまたはヒモヲトシ (紐落し)

日本の子どもは、九歳になるまでは帯を後ろで結ぶ習わし

であるが、その結び方をやめること。

ヒコ(曾孫)

曾孫

ヒコヒコマゴ(ひこひこ孫)

玄孫

ヒマゴ(曾孫)

曾孫

ヒメ(姫)

娘、または若い婦人。

ヒメギミ(姫君)

貴人の娘。

ヒメゴゼ(姫御前)

若い女の子、または若い娘。

ヒメミヤ(姫宮)

王侯貴族の娘、特に国王の娘。

ヒモ(紐)

紐、または革紐。

(例) ヒモヲ トク(紐を解く) 八ないし九歳の子どもの

帯を解いて取りのけ、それとは別の帯を締めさせる。

(例) サンノ ヒモヲ トク(産の紐を解く) 婦人がお産

をする。

また、日本で書状の封をするのに使う封緘¹⁾。

1) ここでは紙縫^{ヒヤ}を言うのであろう。

ヒモジ(ひ文字)

空腹である。これは婦人語である。

ヒモトキ(紐解き)

子どもの帯を取り替える際に行なわれる祝い。帯直しと言
う方がまさる。

ヒナ(雛)

人形。

(例) ヒナ アソビ スル(雛遊びする) 人形で遊ぶ。

ヒナ(雛)

鶏の子、あるいはその他の大きな鳥の子をさす¹⁾が、特に雛
の子の意にとられる。

1) ここでは鶏の雛をさす。

(例) ヒナガリヲ スル(雛狩をする) 雛の子の狩をする。

1) ここでは鶏の雛をさす。

ヒナツル(雛鶴)

詩歌語。すなわち、若い鶴。

ヒキュウツ(低人)

こびと。イッスンボウシ(一寸法師)とも言うが、ヒキュ

ウトほど正しい言い方ではない。

ヒロイゴ (捨子)

ある所で見つかった捨子。¹⁾

1) 日西・日仏両辞書で、ともに捨子の他に捨てた物をも含

めているのは疑問。

ヒタイガミ (額髪)

子どもの額の長い髪。

ヒトダネ (人種)

すなわち、ヒトノ タネ (人の種) 人間の血統、あるいは種。

(例) ヒトダネガ ツクル (人種が尽くる) 人間の種属が

すっかり絶え果てる。

ヒトハラ (一腹)

腹を数える言い方。

(例) ヒトハラノ コドモ (一腹の子供) 一つの腹、すな

わち、一人の母親の産んだ子ども。

ヒトガマシイ (人がましい)

動作や礼儀作法などが大人のように、すなわち、一人前の男のように見える。時には、いざさか過度に自分を一人前

の者として強く見せかける意味にも取られる。

ヒトガタチ (人形)

人の姿、あるいは容貌。

ヒトリ (一人)

一人の男、または一人の女。

ヒトリゴ (独子・一人子)

一人きりの子。

ヒウバ (曾祖母)

曾祖母。

ヒラウチ (曾祖父)

曾祖父。

ヒヨコ (雛)

雛鳥、あるいは、鶏の子

ホウビキ (宝引)

数本の細い綱に「銭」と呼ぶところの貨幣をつなぎ通して行なう、勝負事の一つ。

(例) ホウビキヲ スル (宝引をする) この勝負事をして

遊ぶ。